

令和3年度認定

【計画名:横浜開港資料館における文化観光拠点計画】

①計画目標の達成状況

目標項目名(単位)	R3			R4			R5		R6		R7	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	目標	実績	目標	実績
横浜開港資料館来館者数(人)	20,000	21,136	106%	30,000	32,716	109%	40,000		80,000		112,000	
横浜開港資料館の外国人来館者数(人)	1,000	391	39%	1,500	679	45%	2,000		4,000		11,200	
横浜開港資料館発の伝統的観光地エリアツアーの実施回数(本)	3	3	100%	6	1	17%	6		12		24	
横浜開港資料館の来館者満足度	3.8	4	105%	3.9	4.0	103%	4.0		4.0		4.1	
横浜開港資料館入館料・ミュージアムショップ等の消費額(円)	1,000	718	72%	1,200	527	44%	1,200		1,400		1,500	

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響による観光客(国内旅客、教育旅行旅客)が増加に転じ、来館者数は目標を上回り目標をクリアすることができた。 外国人観光客の増加は途上にあり、R3実績の1.7倍となったが、当初の目的には達していない。下半期には増加傾向であったことから、今後の伸びを予想している。 新型コロナウイルス感染症、施設修繕によるショップの物販スペースの減少により、引き続き消費額が低迷している。教育旅行の団体入館が伸びており、有料入館者は伸びるものの、施設内ショップ等での購買には結びついておらず、結果としてショップの消費額(単価)が下がってしまった。今後、カフェを併設したショップのリニューアルオープンを予定しており、そうした団体旅行客の動向に左右されない収益の軸になることを期待している。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 5つの目標のうち来館者目標数、来館者満足度については達成できたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、外国人の来館者数、ツアー実施回数、ショップ等の消費額という観光需要の回復を前提とした目標が達成できなかった。
--

③計画で取り組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R3	R4	R5	R6	事業類型ごとの実績額
事業1-①	「横浜開港」資料のデジタルアーカイブ整備公開推進事業	所蔵資料のデジタル化、観光利用に向けたコンサルの実施	所蔵資料のデジタル化、デジタルアーカイブβ版の完成			16.6百万
事業1-②	旧館展示「横浜開港の記憶」制作事業	展示基本計画の検討、旧館図面のデジタル化を実施	展示基本計画の検討、他の旧英国領事館改修工事の視察			
事業1-③	旧英国総領事館レクチャーツアー事業	近隣大学と連携し、モニターツアーを実施	富裕層モニターツアーへの会場提供、旅行画像加工アプリ開発への協力			
事業1-④	オンライン「横浜開港」コレクション解説配信事業	館蔵資料についてコレクションごとに配信動画を製作	館蔵資料についてテーマごとに配信動画を製作			
事業1-⑤	旧英国総領事館夜間公開事業	既存照明設備の点検、および更新プランの検討委託を実施	近隣事業者と連携し、ピンクリボンライトアップイベントへの参加			
事業1-⑥	旧英国総領事館フォトジェニックスポット推進事業	プロモーション用のモデル撮影を実施	撮影に関する規定整備、民間事業者に試験的に撮影場所を提供			
事業2-①	多言語アプリケーションの整備事業	既存の解説文の中国語(繁体字、簡体字)、韓国語への翻訳の実施	多言語文化観光ウェブサイト「こい旅横浜～中華街」を制作公開、館内設置パネルの翻訳			21.8百万
事業2-②	訪日客に対応する多言語ウェブサイトの再構築事業	更新サイトの検討	更新サイトの検討、サーバ環境等の検討			
事業3-①	横浜伝統的観光地時空文化観光アプリの開発事業	共同申請者との検討、コンテンツの作成を実施	共同申請者と多言語文化観光ウェブサイト「こい旅横浜～中華街」を制作公開			4.9百万
事業3-②	伝統的観光地エリア内ガイドツアー事業	共同申請者が主催する高付加価値ツアーを実施	横浜中華街朝陽門への案内板の設置			
事業4-①	「横浜開港」資料の商品化事業	共同申請者への商品開発について打診、試作商品の検討、製作	民間事業者への画像提供による商品開発、オリジナル商品の指針となるブランドブックの作成			14.6百万
事業4-②	「食べて楽しむ・買って楽しむ」施設機能拡充事業	付属棟のリニューアルプランの検討	付属棟のミュージアムショップ・カフェ・コンシェルジュの複合機能施設への改修			
事業5-①	野外ミュージアムPR事業	イベント企画「スタチュー・ミュージアム」の実施	イベント企画「スタチュー・ミュージアム」の実施			-
事業5-②	「横浜開港」プロモーション戦略事業	横浜市関連部局との打合せを実施	地域のコミュニティFMの提供番組の開始			

事業6-①	公衆Wi-Fi情報通信機器環境整備事業	Wi-Fi設備導入工事を実施	Wi-Fi設備導入工事を実施（継続）			91.7百万
事業6-②	旧英国総領事館等再整備事業	付属棟修繕工事・外構バリアフリー工事の実施、旧館の修繕基本計画の策定	旧館の耐震診断の実施、改修工事の実施設計			
各年度ごとの実績額→		66.6百万	83.0百万			149.6百万

④事業の進捗状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年度に引き続き、事業1-①・②・④・⑤・⑥、事業2、3、4、5、6は、デジタルアーカイブの作成、資料のデジタル化、多言語によるデジタルウェブコンテンツの制作・公開、イベント実施などで、阻害要因がなく予定どおり進捗し、当初想定した目標を超えて事業を完了したのもあった。 ・事業1-③、3-②については、モニターツアー等の実施のため、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響もあり、当初想定していた事業が十分に実施できなかった。 ・来館者数はR3年度より回復傾向が鮮明となっており、32千人と目標を達成することができた。コロナ以前のR1実績（47千人）に比較すると未だ70%であり、各事業による効果を十分に読み取ることができない状況にはなっていない。外国人観光客の受け入れが再開され、新型コロナウイルス感染症の取扱が変更されたことなどにより、教育旅行をはじめ、さまざまな観光客の来館が増加しつつあり、R5年度は多くの項目で目標達成が増えるのではないかと見込んでいる。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記のとおりR4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が残ったものの、多くの事業で計画どおりに進捗した。
--

⑤拠点施設の要件に関する取組状況

要件	文化観光拠点施設名	横浜開港資料館
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介		1-①「横浜開港」資料のデジタルアーカイブ整備公開推進事業にて、約3,300カットのデジタル画像の作成、資料目録のデータ化といった提供情報の作成を行った。またR3年度にコンサルティングを受けた観光活用を前提としたデジタルアーカイブの開発に着手しβ版が完成した。 1-③旧英国総領事館レクチャーツアー事業では、共同申請者による富裕層向けのモニターツアーを1回実施したほか、スマホで撮影した画像が浮世絵風に加工できるWEBサービス「UKIYOEditor横浜浮世絵版」のAI学習に1-①で撮影したデジタル画像を提供した。 1-⑥旧英国総領事館フォトジェニックスポット推進事業では、料金収入の確保に向けて撮影規定を整備した。
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介		1-④オンライン「横浜開港」コレクション解説配信事業では、「船から見た横浜 前編～象の鼻から大岡川へ～」 「船から見た横浜 後編～堀割川から横浜港へ～」 「横浜と外国人墓地 動乱の幕末に日本を訪れた外国人たち」 「幕末の台場建設プロジェクト」 「横浜開港資料館所蔵古写真に見る和船 一弁才船とはしげ船一」の5本の動画制作を行い、YouTubeにより公開した。従来から公開している動画と合わせて開港資料館で公開している動画の再生回数は7,995回（R4年実績）となった。また、6-①公衆Wi-Fi情報通信機器環境整備事業にて、新館及び旧館の一般開放部分にWi-Fiルーター10台を設置し、将来的に公開するエリアも含めて、ほぼ館内への公衆Wi-Fiの設置が完了した。
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介		2-①多言語アプリケーションの整備事業では、3-①と「伝統的観光地エリア内ガイドツアー事業」と連携し、開港資料館の常設展示室を起点に横浜中華街へと全10スポットを回遊する多言語文化観光ウェブサイト「こい旅横浜～中華街」を制作し公開した。
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築		1-⑤旧英国総領事館夜間公開事業にて周辺事業者と共同で夜間ライトアップを実施した。3-①横浜伝統的観光地時空文化観光ウェブコンテンツの開発事業、3-②伝統的観光地エリア内ガイドツアー事業にて、伝統的観光地エリアのうち横浜中華街の歴史文化の理解につながるウェブコンテンツについて、共同申請者である横浜中華街発展会協同組合、株式会社エイバックスと協議を進め、多言語文化観光ウェブサイト「こい旅横浜～中華街」を完成させた。4-①「横浜開港」資料の商品化事業でも、共同申請者である、山下公園とおり会に加入する事業者の商品開発に資料画像を提供した。
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析		5-②「横浜開港」プロモーション戦略事業にて、R3年度の文化庁のコーチング支援（文化庁が専門家をコーチとして派遣）によるアドバイスを踏まえて、計画実施後の来館者のターゲット層の設定や施設運営のコンセプトなどを再度策定し最適な広報プロモーションを展開していくこととした。
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立		本計画に基づく補助事業の実施にあたり、整備した横浜市ふるさと歴史財団「拠点計画推進課」が引き続き関係部局、共同申請者への連絡調整、諸手続等の事務を担っている。また令和5年度には1名職員を増員する方向とした。 6-②旧英国総領事館等再整備事業に関連して、横浜市の関係部局（教育委員会、都市整備局、環境創造局）と調整や協議を進め、補助金を活用した事業、自己資金による事業が一体的に進められるよう調整をしている。 PDCAサイクルを用いた事業評価については、横浜市ふるさと歴史財団の事業計画、事業報告で情報公開を行っている。

⑥観光関係者（DMOなど）からの評価

評価者	評価内容
横浜観光コンベンションビューロー	<ul style="list-style-type: none"> ・リニューアルオープンを見据え、施設としての希少性も高付加価値として、広く情報発信していくことが必要。そのためにも来館できない人への訴求にもつながるデジタルアーカイブの内容の充実を期待している。 ・開港の地に建つ施設としての信頼感や確かさを軸に、近隣だけでなく市内の多様な事業者との連携を進め、結果として施設に新しい魅力を付加できる取組が進むと良いと思う。

⑦今後の改善の方向性

<p>全体的に、新型コロナウイルス感染症の影響の解消に伴い、急激な観光需要の回復が見込まれる。一方で、当館の拠点計画に基づく事業の実施によって整備は進んでいるが、観光施設としての受け入れキャパシティは未だ十分ではない。そうした急激な需要の回復に可能な限り対応しながら事業を進めていく。</p> <p>またR4年度までに実現した取組について、各事業の中で、実際に観光客とそれを受け入れる共同申請者や周辺事業者に結びつけるかという点が引き続きの課題であり、それらへの対応として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-①や1-②、4-①に関連するが、開発を進めるデジタルアーカイブについて、β版の一般公開にむけたブラッシュアップや今年度設計を行う旧館2階の展示との連携、さらにはショップや民間事業者の商品開発との連携を着実に進めていくこと。 ・2-①や3-②に関連し、多言語文化観光ウェブサイトや画像加工サービスといった、文化観光支援のオンラインツールや、観光地に実際に整備した案内板を、実際の街の観光振興にリンクさせていく。 ・4-②でR5年度オープンするショップ・カフェ・コンシェルジュの複合機能施設での取扱商品と、実際にその由来の地や店舗を結ぶ取組を強化する。
--